

年末年始に関する分科会から政府への提言

年末年始には、多くの人が連続した休暇を取ることが予想される。年末年始に感染を拡大させないために、分科会から政府に対して以下のことを提言させて頂きたい。

1. 政府におかれては、今年の年末年始には、集中しがちな休暇を分散させるために、年末年始の休暇に加えて、その前後でまとまった休暇を取得することを職員に奨励して頂く範を示してもらいたい。
2. 1で述べた趣旨は働き方改革に資するものであり、新たな働き方を創造する意味からも、新型コロナウイルス感染症を契機として、今まで以上に強いリーダーシップを発揮して本提言を実現して頂きたい。
3. 政府におかれては、経済団体、地方公共団体等に対して、政府と同様に分散して休暇を取得することを呼び掛けて頂きたい。
4. 政府におかれては、民間企業とも連携し、「小規模分散型旅行」を推進するなど、GO TOキャンペーン各事業の運用の在り方を含めて、年末年始の人の流れが分散するよう努めて頂きたい。
5. さらに年末年始は飲酒や会食の機会が増えることから、政府におかれては、本分科会から提言した「感染リスクが高まる5つの場面」「感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫」をあわせて国民・社会に幅広く伝わるよう発信して頂きたい。

○令和3年は1月3日は日曜日（移動や初詣が集中し「密」となる可能性）

○「**小規模分散型旅行**」⇒ **休暇の分散**

➡ **旅館・ホテル経営にプラス、マクロ経済的にもプラス（消費拡大）**

○医療・介護関係者、金融関係者、交通インフラ関係者、ゴミ収集など、
いわゆる「**エッセンシャルワーカー**」への配慮

○世界経済の回復に伴う輸出増のもと生産増計画など

➡それぞれの**仕事の内容や業務の実情に応じて**、仕事の分担・交代など
工夫しながら休暇を分散

➡「**外出自粛**」「**ステイホーム**」ではない→感染防止と経済の両立

年末年始の休暇取得について

- 年末年始の休暇について、
 - ・ 来年1月3日は日曜日であり、例年以上に年末年始の集中が予想される。
 - ・ 今回の提言は、感染拡大防止や働き方改革等の観点から、国、地方公共団体、経済界等において、休暇を分散することで、年末年始の人の流れが分散するようお願いするものであり、これは社会経済活動との両立にも資するものと考えている。
- 年末年始の休暇取得について、例えば、お正月の3が日に加えて、更に年始を休んでいただくことや、その分年末の休暇を調整いただくことなどが考えられる。
- このようなことにより、業種や各企業の事情に応じて、仕事の分担やお一人お一人の休み方を工夫することで、社会全体の人の流れを分散していただくことが望ましく、そのためのご協力を呼びかけたもの。
- よって、1月11日といった特定の日まで一律に連続休暇を取得することを求めているのではなく、人の移動が集中するのを避けてほしいという趣旨で申し上げたものである。
- 感染リスクの増加を回避するために、人の移動の集中を避けることについて、ご協力をお願いしたい。